
とある魔法使いのお話～MMM...もっともっとメイドさん～

月天輝夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔法使いのお話〜MMM…もっともつとメイドさん〜

【Nコード】

N8441J

【作者名】

月天輝夜

【あらすじ】

輝螺のもとにメイド達がやってきた!?

小説を読む前に

この小説は《まぶらほ》の二次創作で、《メイドの巻》シリーズが元となっています。

主人公はオリキャラで、リーラ達が和樹ではなく、主人公のところに来たら、という設定です。

ようは、原作の夕菜の猟奇っぷりが消えます。

ただ、和樹や夕菜、B組の面々も登場します。

主人公は優秀なキャラだったり、リーラ達の性格も作者よりになっ
てしまいます。

ですが、少しでも楽しんでいただければ幸いです。

ということ、ぜひともこの作品をよろしく願います。

序章（前書き）

補足説明

この作品には、大尉等の単語が出てきますが、読み方がかなり特殊ですので、一覧を乗せておきます。

《カチューシャの色と階級》

紫：ハウスキーピングメイトロン（大佐）

緑：ハウスホールドヘルパー（中佐）

黒：ハウスパールーメイド（少佐）

赤：ハウスキーパー（大尉）

黄緑：ハウスメイド（中尉）

水色：パールーメイド（少尉）

赤白の縞：ピトウィーンメイド（准尉）

ピンク：チャンバーメイド（曹長）

青：ナースメイド（軍曹）

青赤の縞：バーメイド（伍長）

黄：スカラリーメイド（上等兵）

青白の縞…ワードメイド（一等兵）

白…キッチンメイド（二等兵）

序章

日の光は朗らかで、気温も暖かく思わずうたた寝をしてしまいがちだ。

優しい日光は室内に差し込み、室内を照らしている。

室内はまさに豪華と言つに相応しく、だからといって下品ではない。

その室内は石造りで、床にはペルシアの手織絨毯が敷かれ、天井からは豪華なシャンデリアが下がっている。

中央にはバロック風の木製のベッドがしつらえており、上にはガチヨウの羽のクッションが乗せられている。

そしてその枕元の壁際には、大きな旗がかけられていた。金糸や銀糸を使って細かな刺繍がされている。アルファベットのMを三つ重ねた意匠で、その上には三日月を伏せてひだをつけたような模様が重ねられている。そして旗の下部には金糸で「1854」と縫い取られていた。

窓際の椅子に腰掛けている老人は、その旗を眺めると、横にあるサイドボードの上に置いてある呼び鈴を手に取った。

軽く振られると、澄んだ金属音が部屋の外まで鳴り響いた。しばらくすると、櫛の大きな扉がゆっくり開いた。

入ってきたのは若い女性。背が高く、銀色の髪を後ろでまとめている。涼しげな目元に、形の良い眉、引き締まった唇は、年齢に似合

わなない落ち着きをもたらしていた。すらりとした全身は紺色の服で包まれているものの、豊かな胸はその上からでもはつきり分かった。彼女は一礼すると、音を立てないで歩き、老人のもとへ近寄った。

「お呼びでしょうか」

老人は何か考えごとをするように、壁にかかる旗を眺めていた。彼女も考えごとをしているのは分かったので、これ以上話しかけるようなことはしなかった。

しばらくすると、老人は思い出したように口を開いた。

「……リーラ」

「はい」

女性は静かに返事をした。

「来週が最後だ」

「……はい」

リーラは少し間を空けて返事をした。

「早いものだ。ここに来た頃は遙か遠くのことだと思っていたが、年月が経つのは早いものだな」

「はい」

また沈黙が降りる。

いつの間にか窓には小鳥がとまっており、老人はそれに気づくと小さく微笑んだ。

「リーラ、お前に伝えることがある。その封筒を開けてくれんか」
リーラはサイドボードの上に置いてある封筒を取る。中には書類が数冊が入っていた。それと写真が数枚。写真にはまだ若い、学生らしき少年が写っていた。

リーラはじっと、その写真を見つめた。

「……この方が？」

「そうだ。東京支部が報せてくれた。ご両親からもご了承をいただいている。私も資金は提供するつもりだ」

「そうですか……」

リーラの視線は、ずっと写真に注がれていた。

「気に入ったか……」

「……」

リーラは写真を置くと、調査書を見る。すると目を少し見開いた。

「これは……」

「ああ。学生とは思えん少年だ。だからこそお前たちが仕えるに相応しいとも言える」

老人は静かにそういうと、窓の外を眺めた。

「まあ……この島を離れるというのは、心残りと言えれば心残り、かもな」

老人の言葉につられ、リーラも調査書から目を外し窓の外を見る。

そこに広がるのは、様々な草木が息づく美しい森林と光が反射する煌びやかな海。

すると突然、窓にいた小鳥がリーラの肩にとまった。リーラは少し驚いたようだったが、小さく微笑むと、小鳥の頭を撫でた。

「ははっ、本当に残念だ」

「はい。その通りです」

リーラは優しくその小鳥を外に飛び立たせると、老人に一礼して、静かに退出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8441j/>

とある魔法使いのお話～MMM...もっともっとメイドさん～

2010年10月13日16時47分発行